



営農NEWS



促成ピーマン栽培でのうどんこ病、アザミウマ類などを防除しましょう

県病害虫防除所の「病害虫発生予報 11 月号」によりますと、向こう 1 ヶ月間における促成ピーマンでのうどんこ病の発生量は平年より多く、アザミウマ類の発生量は平年よりやや多いと予想されています。

これらの病害虫は、多発生しますと防除がなかなか困難になりますので、少発生のうちに防除を徹底して下さい。

1 うどんこ病

【防除のポイント】

- 1) 施設内の通風、採光を良好にするため適正な整枝剪定を行い、換気を適切に行って適度な温湿度の圃場環境を保つように努めましょう。なお、日照不足が続く場合は、予防散布を行いましょう。
- 2) 発病葉や被害落葉は伝染源になりますので、できるだけ丁寧に圃場外に持ち出し、適切に処分した後に薬剤防除を行いましょう。
- 3) 天敵昆虫を導入している圃場では、天敵への影響をメーカーや関係機関から必ず指導を受けてください。
- 4) 薬剤散布後は、防除効果を確認し、耐性菌の発達を抑えるため、系統の異なる薬剤でローテーション散布しましょう。

表 1 ピーマンうどんこ病に適用のある主な防除薬剤（平成 27 年 11 月 5 日現在）

薬剤名	系統名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数
パンチョTF顆粒水和剤	E B I + アミドキシム	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内
ラリー水和剤	E B I	4,000~6,000 倍	収穫前日まで / 4 回以内
ダコニール 1000	有機塩素	1,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
モレスタン水和剤	キノキサリン	2,000~3,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
アフェットフロアブル	アニライド	2,000~4,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内
カスミンボルドー	抗生物質 + 無機銅	1,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内

※ 表 1 の他に、硫黄粒剤のくん煙処理があります。この場合には専用の電機加熱式くん煙器を利用してください。

2 アザミウマ類

アザミウマ類は、食害による直接的な被害の他に、黄化えそ病などのウイルスを媒介します。

【防除のポイント】

- 1) ハウス内外の雑草（アザミウマ類の飛来源、ウイルスの保毒源）を常に除去しておきましょう。
- 2) 施設内に青色粘着テープを設置し、誘殺されるアザミウマ類の生息密度を推測して防除時期の目安にします。
- 3) 薬剤散布は、アザミウマ類が薬液が到達しにくい花や蕾、新芽等の中に生息していることが多いため、整枝剪定の後など薬液が生息場所にかかりやすくなったときに、株全体へ丁寧に散布しましょう。
なお、アザミウマの種類により効果のある薬剤が異なる（ネオニコチノイド系殺虫剤は、ミナミキイロアザミウマに対して有効ですが、一部はヒラズハナアザミウマおよびミカンキイロアザミウマに対して防除効果の低いことが知られています）場合がありますので、被害の特徴等から出来るだけ種類を明らかにし、薬剤を選択してください。
- 4) 天敵昆虫を導入している圃場では、天敵への影響をメーカーや関係機関から必ず指導を受けてください。
- 5) 薬剤散布後は、防除効果を確認し、抵抗性害虫の発達を抑えるために、系統の異なる薬剤でローテーション散布しましょう。

表 2 ピーマンのアザミウマ類に適用のある主な防除薬剤（平成 27 年 11 月 5 日現在）

薬剤名	系統名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	登録の対象害虫名
アタブロン乳剤	I G R	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	ミナミキイロアザミウマ
コテツフロアブル	—	2,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ
スピノエース顆粒水和剤	スピノシン	5,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	アザミウマ類
プレオフロアブル	—	1,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	ミナミキイロアザミウマ
ベストガード水溶剤	ネオニコチノイド	1,000~2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	ミナミキイロアザミウマ
モベントフロアブル	—	2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	アザミウマ類

農業使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040